令和元年度　都城市立夏尾小学校　学校評価報告書①

【４段階評価　Ａ（４）＝そう思う　　Ｂ（３）＝だいたいそう思う　　Ｃ（２）＝あまりそう思わない　　Ｄ（１）＝そう思わない】

**○　学力の向上**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 重点目標 | 目標達成のための  努力実践事項 | 学校の自己評価コメント （○は職員の考察、◎は児童・保護者アンケートから） | 自　己  評　定 | 関係者  評　定 | 学校関係者コメント |
| ◆　諸学力調査で県（全国）の平均値を上回る。  ◆　基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。  ◆　読書活動を充実と深化を図る。  ◆　家庭学習の習慣化を進める。 | 「分かる・できる授業の創造」をテーマに、指導方法の工夫・改善に努める。 | ○　県や市の方針を参考にしつつ研究主題を設定し、４回の授業研究会を通じて普段の授業の質を高める努力を行っている。  ◎　「授業は分かりやすい」と回答した児童が86％である。 | ３ | ４ | ○　学校が取り組んでいる学力の向上については、コメントが難しいところがある。  ○　オープンスクールで参観すると、子供達は楽しそうに授業を受けている。  ○　８割以上の子供達が「授業は分かりやすい」と回答しているのは素晴らしい。 |
| 習熟の時間やまとめる時間を設定する。 | ○　１単位時間の中で習熟の時間を設定するようにしており、個に応じたプリントの準備も含め、学習内容の定着を図っている。  ◎　基礎学力の向上を感じている保護者が80％である。 |
| 毎月、学習指導週間を設定し、基本的な学習習慣の定着を図る。 | ○　授業の準備や姿勢、聞く態度などについて指導を行った。発表は積極的にできるが、鉛筆の持ち方が適切でない児童がいる。 |
| 読み聞かせを定期的に行い、図書館サポーターや移動図書館を活用する。 | ○　ボランティアによる読み聞かせ、図書館サポーターによる本の貸出・読み聞かせ・図書祭、クレヨン号の活用を行った。  ◎　読書に親しんでいると感じていない保護者が33％である。 |
| 家庭学習の手引きを活用する。 | ○　家庭学習について３つの約束を呼びかけ、チェックシートで点検を行ったが、習慣が身に付いていない児童も若干いる。 |
| **《課題と改善点》**  ＊　学力向上に向けての一番の課題は、「分かる・できる」ようになる授業を目指すことである。そのため、校内研究を通して児童の学力向上と職員の授業力向上に努める。  ＊　１単位時間の授業の中で評価し、定着や習熟の時間を確保し、学習内容の確実な定着を図り、学力保障を目指す。  ＊　単元評価テストやWeb評価単元テストを実施し、個に応じた指導に生かす。  ＊　家庭学習の習慣化や読書活動の推進に向けた取組を継続して行う。 | | | | | |

令和元年度　都城市立夏尾小学校　学校評価報告書②

【４段階評価　Ａ（４）＝そう思う　　Ｂ（３）＝だいたいそう思う　　Ｃ（２）＝あまりそう思わない　　Ｄ（１）＝そう思わない】

**○　豊かな心の育成**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 重点目標 | 目標達成のための  努力実践事項 | 学校の自己評価コメント （○は職員の考察、◎は児童・保護者アンケートから） | 自　己  評　定 | 関係者  評　定 | 学校関係者コメント |
| ◆　思いやりの心を育み温かい人間関係を醸成する。  ◆　自信をもち、人生を生き抜く力を育てる。  ◆　基本的な生活習慣を定着させる。  ◆　規範意識を高める。  ◆　環境美化や感謝の心を育てる。 | 月に１回「朝のあいさつ運動」や「命の大切さを考える日」を設定する。 | ○　中学校と合同で、職員も一緒になって実施できた。「・・さん、おはよう。」という児童のあいさつも定着しつつある。  ○　命の大切さを考える講話や体験的な活動等を行うことができた。 | ３ | ４ | ○　「学校は楽しいですか。」の問いに、あまりそう思わない児童が２名、そう思わない児童が１名いるのが気になる。  ○　地域でのボランティアはどれくらい行っているのか。 |
| 児童の自己肯定感を高める活動や環境を整備する。 | ○　毎学期１週間、全校帰りの会を行い、友達の良い行動を出し合うことができた。また、毎月のアンケートや教育相談を実施し、児童理解に努めている。  ◎　「学校は楽しいですか」の問いにC＝2名、D＝1名であった。 |
| 毎月、生徒指導週間を設定し、基本的な生活習慣の定着や規範意識の高揚を図る。 | ○　生徒指導週間や日常的な指導を通じて、基本的な生活習慣の定着や規範意識の高揚を図っているが、廊下歩行やスリッパの履き替え、言葉遣いで指導される児童もいた。  ○　オンラインゲームに関するトラブルや相手が嫌がる悪戯は、指導により改善された。 |
| ボランティア活動を推進する。 | ○　朝の清掃ボランティアや募金活動を行った。  ◎　ボランティアの評価は、児童・保護者ともに3.2である。 |
| **《課題と改善点》**  ＊　命を大切にする教育を推進し、道徳の時間を中心とする道徳教育の充実を図る。  ＊　互いに認め合い、自己肯定感を高める取組を継続するとともに、将来に向けての自分の「夢」を意識させる。  ＊　高齢者宅訪問や地域の方との交流活動を充実させるとともに、ボランティア活動の推進を行い、福祉教育を充実させる。  ＊　教育相談を充実させ、「すこやか委員会」において共通理解し、具体策を話し合う。  ＊　進んで挨拶や返事ができる児童、廊下歩行のきまりや時間を意識した行動が取れる児童を育成する。 | | | | | |

令和元年度　都城市立夏尾小学校　学校評価報告書③

【４段階評価　Ａ（４）＝そう思う　　Ｂ（３）＝だいたいそう思う　　Ｃ（２）＝あまりそう思わない　　Ｄ（１）＝そう思わない】

**○　健康・安全**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 重点目標 | 目標達成のための  努力実践事項 | 学校の自己評価コメント （○は職員の考察、◎は児童・保護者アンケートから） | 自　己  評　定 | 関係者  評　定 | 学校関係者コメント |
| ◆　児童一人ひとりの体力向上に努める。  ◆　健康・安全意識の習慣化を図る。  ◆　食に関する指導を充実させる。  ◆　児童の健康や安全を守る教育を充実させる。 | 体育の授業で体力向上の取組を行う。 | ○　柔軟性・握力・持久力を高めるため、体育の授業の開始時に遊具を使ったサーキットトレーニングや縄跳びを継続して行うことができた。  ○　体力テストでＡ判定の児童が２名に増えた。 | ３ | ４ | ○　児童の健康・安全について、今後も充実してほしい。 |
| 毎月、保健・給食指導週間を設定し、健康・安全の意識を高める。 | ○　指導週間に重点目標を意識させ、指導の徹底を図った。また、定期的に「ほけんだより」を発行し、掲示物を工夫することで、保健や健康に関する情報を発信した。 |
| 給食指導や弁当の日の取組みにより、食に関する指導を充実させる。 | ○　給食の準備や当番の仕事、食事のマナー等について指導した。　箸の正しい持ち方や時間内に食べ終わることが課題である。  ◎　好き嫌いを理由に給食を残す児童が3～4名いる。 |
| 児童の健康観察や定期的な避難訓練・安全点検を確実に行う。 | ○　日々の健康観察や行事前のアンケートにより児童の健康状態の把握に努めた。また、交通安全教室、避難訓練（地震・不審者）、毎月の安全点検を計画的に行うことができた。 |
| **《課題と改善点》**  ＊　授業の中で、一輪車・縄跳び・持久走等に取り組み、「体力向上プラン」に基づき、各種目の体力の向上に努める。  ＊　火山・地震・火災・不審者等に対する避難訓練の充実と整備を図る必要がある。１学期の保護者引き渡し訓練は、中学校と合同で行う。  ＊　基本的な生活習慣やゲームやＳＮＳへの対応、箸の持ち方や食事のマナーについては家庭との連携が必要である。そのため、啓発資料の配付、参観日での投げ掛け、家庭教育学級での研修機会の設定など工夫が求められる。  ＊　日々の健康観察や定期的な安全点検を確実に行い、修繕が必要な箇所については迅速に対応する。 | | | | | |

令和元年度　都城市立夏尾小学校　学校評価報告書④

【４段階評価　Ａ（４）＝そう思う　　Ｂ（３）＝だいたいそう思う　　Ｃ（２）＝あまりそう思わない　　Ｄ（１）＝そう思わない】

**○　地域に信頼される教育の推進（教育課程の工夫）**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 重点目標 | 目標達成のための  努力実践事項 | 学校の自己評価コメント （○は職員の考察、◎は児童・保護者アンケートから） | 自　己  評　定 | 関係者  評　定 | 学校関係者コメント |
| ◆　体験活動の充実を図る。  ◆　地域の方々との連携強化を図る。  ◆　伝統芸能を継承し、ふるさとを大切にする心を醸成する。  ◆　小中一貫教育の連携活動を充実させる。  ◆　保護者や地域と目標・目的を共有し、保護者や地域の願いを取り入れた実践を行う。 | 夏尾小ならではの体験活動を継承していく。 | ○　地域の方々の協力を得つつ、野鳥教室、梅干作り、サツマイモ・大豆栽培、みそ造りを行うことができた。  ◎　95％の児童がA評価（＝積極的に参加した）であった。 | ３ | ４ | ○　文化祭では。子どもたちがよく頑張っていた。  ○文句なく良い評価である。  ○グラウンドゴルフの案内を回覧では分からないので、高齢者クラブ会長へ電話と文書の配付があると良い。 |
| 地域の方とのふれあいの場を位置付ける。 | ○　花植え活動、高齢者宅訪問、グラウンドゴルフを通して地域の方との交流を図った。  ◎　保護者から運動会で地域の方が参加できる種目を増やしたらどうかという意見がある。 |
| 学校行事等で奴踊りを披露する。 | ○　奴踊りや自然体験を通して夏尾のよさを実感している児童が多い。 |
| 学校行事やあいさつ運動、生徒理解面で連携を図る。 | ○　運動会・文化祭・持久走大会、あいさつ運動を協力しながら実施することができた。 |
| オープンスクールや定期的な情報発信を行う。 | ○　オープンスクールを２回実施し、学校だよりやホームページ等による家庭や地域への情報発信を行った。  ◎　保護者から２学期に振替休業日が多いという意見があった。 |
| **《課題と改善点》**  ＊　体験活動の充実を図り、地域の方々との連携強化を図る。  ＊　都城市が掲げている「コミュニティ・スクール」の実現に向けて、学校運営協議会の機能を生かすとともに、PTA組織の見直しや活動の活性化を図る。  ＊　保護者や地域と目標や目的を共有し、オープンスクールや小中合同運動会で保護者や地域の願いを取り入れた実践を行う。  ＊　小中一貫教育を確かなものにするため、９年間の到達目標を共有し、系統性や共通実践項目について検討できるとよい。 | | | | | |